

□医療・福祉専門科目

科目名	医療・福祉マネジメント	2単位
担当者	近藤 克則（非常勤教員）・渡邊 良太（非常勤教員）	
テーマ	医療・福祉のマネジメント課題の全体像を学び、実践と研究に活かす	
開講形態	ハイブリッド形式	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt;            医療・福祉            マネジメント・サイクル            ミッション、ビジョン、ゴール            多職種協働 (interprofessional collaboration)            健康の社会的決定要因 (social determinants of health)</p> <p>&lt;内容の要約&gt;            日本はいまや高齢人口割合が世界一多い国である。医療・福祉サービスのいずれかを必要とする高齢者は、同時に他のサービスも必要とする。いずれかの分野で働く者は、医療・福祉サービスの全体を学ばねばならない。質の高いサービスを提供するには、ミクロ（臨床）レベルの技術だけでなく、それを支えるチーム・組織、システム、政策に至るすべてのレベルにおけるマネジメントが影響する。            本講義では、医療・福祉職に必要なミクロ（臨床）レベルの QOL (quality of life) やケア・マネジメントから、メゾ（チーム・事業所）レベルのマネジメント、マクロ（政策）レベルの医療・介護・社会政策的マネジメントまで取り上げて論じる。            医療福祉サービスの特性・固有性と、レベルや領域を超える「マネジメント」の普遍性の両面から、その基礎的な概念を学ぶ。</p> <p>&lt;学習目標&gt;            医療・福祉の各場面におけるマネジメントの必要性を理解する。            現場の課題をミクロ、メゾ、マクロの各視点から説明できる。            現場の課題に種々のマネジメント手法を応用することができる。            現場の課題の社会的・制度的背景を理解し、現場のマネジメントに役立てられる。            多職種協働の必要性、困難性を説明できる。</p>	
授業の進め方	第 1回 オリエンテーションとポートフォリオ・医療・福祉マネジメント総論（渡邊） 第 2回 QOLを捉える枠組み（渡邊） 第 3回 ケア・マネジメント（渡邊） 第 4回 ケア・マネジメントと多職種連携（渡邊） 第 5回 健康行動を促す戦略（渡邊） 第 6回 チーム・組織のマネジメント：職業性ストレス（渡邊） 第 7回 チーム・組織のマネジメント：ファシリテーション（渡邊） 第 8回 ケアの質のマネジメント研究（渡邊） 第 9回 保健医療福祉の半世紀とNPM（近藤） 第10回 医療政策（近藤） 第11回 超高齢社会と福祉産業のmission・chance・risk（近藤） 第12回 高齢者医療介護の課題（近藤） 第13回 保健・介護予防政策のマネジメント（1）（近藤） 第14回 保健・介護予防政策のマネジメント（2）（近藤） 第15回 研究と教育のマネジメント（近藤） ・臨床→チーム・組織→政策の順に進める予定だが、講師の都合で順番が変更になる場合がある。 ・グループワークを取り入れる場合がある。	
事前学習の内容 学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの該当部分を予習すること。</li> <li>・講義内で受講生のポートフォリオの発表を実施する。</li> </ul>	
本科目の 関連科目	ケースメソッド演習	
テキスト	近藤克則著：「医療・福祉マネジメントー福祉社会開発に向けて 第3版」改訂版、ミネルヴァ書房、2017	
参考文献	近藤克則：「医療クライシス」を超えて-イギリスと日本の医療・介護のゆくえ。医学書院、2012 近藤克則：健康格差社会への処方箋。医学書院、2017 近藤克則：長生きできる町。角川新書、2018 近藤克則：研究の育て方-ゴールとプロセスの「見える化」。医学書院、2018 近藤克則：健康格差社会-何が心と社会を蝕むのか。医学書院、2022 藤井博之：ラーニングシリーズⅠP保健・医療・福祉専門職の連携教育・実践第1巻ⅠPの基本と原則。協同医書。2018 奥原剛：実践 行動変容のためのヘルスコミュニケーション一人を動かす 10原則Ⅰ。大修館書店、2021	
成績評価方法 と基準	毎回、ミニ・レポート、感想、質問を提出してもらいます。この提出を基に出席確認を行います。本レポートは 2000 文字から 3000 文字程度（A4 版で 2 枚以内）。テーマは講義中に示します。 〆切りは 1 月 19 日、nfu.jp に提出してください。 毎回の提出物・ポートフォリオ発表(30点)とレポート(70点)の割合で評価します。	

□医療・福祉専門科目

<p><b>科目名</b></p>	<p><b>ソーシャルワーク論</b> ※本科目は認定社会福祉士認定制度の認証科目（共通専門／ソーシャルワーク理論系科目群Ⅰ）です。</p>	<p><b>2単位</b></p>
<p><b>担当者</b></p>	<p>田中 千枝子（非常勤教員）</p>	
<p><b>開講形態</b></p>	<p>対面形式</p>	
<p><b>テーマ</b></p>	<p>ソーシャルワークを理論や方法論として学び、事例研究やロールプレイやカンファレンス体験などを通じて理解する</p>	
<p><b>科目のねらい</b></p>	<p>&lt;キーワード&gt;①ソーシャルワーク ②実践理論 ③社会福祉方法論 ④ミクロ・メゾ・マクロ実践 ⑤専門性          &lt;内容の要約&gt;ソーシャルワーク実践の基盤となる考え方や方法を示すソーシャルワーク実践理論やアプローチに関する基本的知識や支援観や視点を得ることによって、特にミクロからメゾレベルのソーシャルワークの専門性の確認をする。また実践事例を分析し、グループ作業によりコミュニケーションをはかる体験をすることで、価値に基づく知識・技術を検証し、さらにそれを専門職のコンピテンスとして身に着けるために集団学習およびレポート作成によるセルフワークによる学習を行う。          方法としては、実際の事例に対して様々な教育的手法により実践理論・モデル・アプローチを適用し、参加型授業によって個人・集団・地域等一定の視点からの事例の展開を観察し理解し分析し、解釈および評価するプロセスを追い、事例検討の流れを体験する。          &lt;学習目標&gt;人の生活/人生に着目し、社会的枠組みにおいて福祉的課題を設定し、その科学的視点を身に着けることによって、ソーシャルワークの実践方法を理解し、組織・地域・制度に対して、働きかけることができる。ソーシャルワークの理論や展開過程を問題解決に応用する能力として身に着け、多職種に対するコミュニケーションやプレゼンテーション等のマネジメントスキルの研鑽に役立てることを目的とする。</p>	
<p><b>授業の進め方</b></p>	<p>第 1回 オリエンテーション 授業契約          第 2回 SWの実践理論概論講義          第 3回 援助観・価値観の理論的変遷 事例による検討          第 4回 統合理論の概観 事例による検討          第 5回 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル ロールプレイ          第 6回 エコシステム論と時間：空間的把握 エコマップ・タイムライン作成 G作業          第 7回 ピンカス・ミナハンの4つのシステム理論、地域における多職種他機関連携を意識したエコマップ・タイムライン作成 G作業          第 8回 GWに関する基礎理論概観 チームアプローチ協働の型 ロールプレイ          第 9回 グループ力動論、司会の技術、事例検討、ロールプレイ KJ法によるGW          第10回 課題に対するプレゼンテーション技術 ディスカッションとリーダーシップ          第11回 地域福祉の技術と評価 調査研究          第12回 エンパワメント評価法 ワークショップのロールプレイ          第13回 SWリサーチ 介入計画の作成          第14回 ミクロ・メゾ・マクロに展開するSWとマネジメント レポート          第15回 グループ発表、まとめ、レポート作成</p>	
<p><b>事前学習の内容・学習上の注意</b></p>	<p>○前もって社会福祉学の基礎的な理論や概念の知識（教科書程度）を確認しておくこと          ○ディスカッションやロールプレイなどG作業や演習形式を多用するので、積極的に参加すること          ○専修や専攻を超えて様々な立場の学生が集まるので、多くの仲間を作るようにすること          ○集中講義3日間 午前と午後計6回の授業内レポートを課し、理解の内容を確認する</p>	
<p><b>本科目の関連科目</b></p>	<p>医療・福祉マネジメント研究科「専門演習Ⅰ・Ⅱ」の考え方や論文作成の枠組みや問題提起に寄与する。なお本科目は「認定社会福祉士」の資格付与対象科目として認定されている。</p>	
<p><b>テキスト</b></p>	<p>木村容子・小原眞知子編 「ソーシャルワーク論Ⅱ—理論と方法—」法律文化社 2023</p>	
<p><b>参考文献</b></p>	<p>渡部律子『福祉専門職のための統合的多面的アセスメント』ミネルヴァ 2020          ブトユリム・Z 『ソーシャルワークとは何か』川島書店 1986 その他資料配布</p>	
<p><b>成績評価方法と基準</b></p>	<p>集中授業3日間で、午前・午後の2回×3＝6回 レポート提出 60%          ディスカッションやロールプレイへの参加度 40%          総合評価により60点以上を合格とする。</p>	

□医療・福祉専門科目

科目名	暮らしと医療福祉制度	2 単位
担当者	李 忻	
開講形態	対面形式	
テーマ	生活・暮らしの視点から医療福祉制度を学ぶ	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 制度・政策の定義、医療保険制度、高齢者に関わる医療・福祉制度、介護保険制度</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 21世紀初頭に日本は世界一の超高齢社会となった。それに伴い、国民医療費を筆頭に、医療・福祉分野での費用支出が増え続けてきた。国民皆保険の医療制度を維持しつつ、医療福祉システムの効率化がより一層求められている。 本講義ではまずは、基礎知識として医療・福祉に関わる諸制度・政策に関する専門用語の定義を学び、今日の日本の医療・福祉制度の基本的な枠組みや財政状況を理解する。その上で、数多くの医療福祉制度・政策において、生活や暮らしの視点から、それぞれの制度の対象者や、被保険者、保険料、保険給付などを学ぶ。さらに、それぞれの制度・政策の構造的な課題について自ら分析・整理し、これらの制度・政策の課題を解決するための改革案を提案できる知識を習得する。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 社会保障制度の中での医療福祉制度について理解できる。 現役世代の医療保険制度が理解できる。 高齢世代に関わる医療保障制度が理解できる。 今日の医療福祉制度・政策の課題が理解できる。 医療福祉制度・政策の課題を解決するための改革案が提案できる。</p>	
授業の進め方	<p>第 1 回 制度・政策に関わる基礎知識の学習</p> <p>第 2 回 日本の国民皆保険の歴史</p> <p>第 3 回 日本の医療保険制度の枠組み</p> <p>第 4 回 国民健康保険制度</p> <p>第 5 回 被用者医療保険制度</p> <p>第 6 回 近年の医療保険制度改革</p> <p>第 7 回 後期高齢者医療制度</p> <p>第 8 回 前期高齢者医療財政調整制度</p> <p>第 9 回 高齢者医療制度を支える財政の仕組み</p> <p>第 10 回 今日の医療保険制度の課題</p> <p>第 11 回 介護保険制度の仕組み（1）</p> <p>第 12 回 介護保険制度の仕組み（2）</p> <p>第 13 回 介護保険制度の近年の制度改正</p> <p>第 14 回 介護保険制度の財政構造と課題</p> <p>第 15 回 医療福祉の連携と地域包括ケアシステム</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>○授業の討論に積極的に参加し、自らが意見を述べる際に根拠を示すこと。</p> <p>○授業の後、復習すること。</p>	
本科目の関連科目	ケアマネジメント論、人材マネジメント論、家族と社会保障（社会福祉政策論）、医療・福祉マネジメント（保健・医療・福祉サービス論）	
テキスト	テキストを使用せず、講義資料を配布する。	
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『よくわかる社会保障論』、増田雅暢・小島克久・李忻、法律文化社、2021</li> <li>・『医療の経済学』、河口洋行、第4版、日本評論社</li> <li>・『日本の医療 制度と政策』、島崎謙治、東京大学出版会</li> <li>・『医療政策論』（通信教育部指定教科書、日本福祉大学）</li> </ul>	
成績評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義でのディスカッションへの参加（40%）、期末レポート（60%）で成績判定を行う。</li> <li>・総合評価 60 点以上を合格とする。</li> </ul>	

□医療・福祉専門科目

科目名	家族と社会保障（隔年開講、2026年度開講）	2単位
担当者	藤森 克彦	
開講形態	ハイブリッド形式	
テーマ	①なぜ日本の貧困率が高いのか ②なぜ単身世帯は増加するのか。求められる社会（福祉）政策は何か。	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 1. 単身世帯、2. 所得再分配、3. 貧困、4. 社会的孤立、5. 福祉国家レジーム</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 本科目では、前半で、日本の社会保障制度について、国際比較を交えながら、その特徴と限界を考える。 後半では、単身世帯を切り口に、日本の社会（福祉）政策を考察していく。日本では、生活上の様々なリスクに家族が大きな役割を果たしてきた。しかし、世帯規模が縮小し、家族の支え合い機能が、従来よりも弱くなっている。単身世帯の増加は、その象徴といえる。そこで、単身世帯の増加の実態と生活上のリスクを考察しながら、今後、求められる政策等を総合的に考察していく。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ・社会（福祉）政策の役割を説明できる。 ・日本の貧困の実態と要因を把握し、必要な社会（福祉）政策を説明できる。 ・単身世帯の増加実態とその要因を把握し、必要な社会（福祉）政策を説明できる。</p>	
授業の進め方	第1講 インTRODクシヨソ社会保障制度とは何か 第2講 日本の社会保障制度の枠組み 第3講 国際比較を通して、日本の貧困を考える① 第4講 国際比較を通して、日本の貧困を考える② 第5講 所得再分配の効果をめぐる議論と実態① 第6講 所得再分配の効果をめぐる議論と実態② 第7講 福祉国家の3類型① 第8講 福祉国家の3類型② 第9講 単身世帯の増加とその要因 第10講 単身世帯の生活上のリスクー社会的孤立、貧困、介護① 第11講 単身世帯の生活上のリスクー社会的孤立、貧困、介護② 第12講 単身世帯と「身寄り問題」① 第13講 単身世帯と「身寄り問題」② 第14講 単身世帯の増加に対する対策 第15講 まとめ講義	
事前学習の内容・学習上の注意	・講義の中では「考えること」を重視するため、教員から学生に問いを投げかけ、学生に発言を求める対話型の講義を行っていく。 ・第1講から第8講までは、日本の社会保障制度について講義を行う。第9講以降は、単身世帯を切り口に、生活保障を考える。 ・講義終了後、学んだ内容を指定テキストや参考文献によって確認しておくこと。	
本科目の関連科目	暮らしと医療福祉制度、地域福祉論	
テキスト	藤森克彦『単身急増社会の希望』日本経済新聞出版社、2017年（講義内で配布予定）	
参考文献	権丈善一・権丈英子『もっと気になる社会保障』勁草書房 2022年 権丈善一『ちょっと気になる社会保障V4』勁草書房 2025年 権丈英子『ちょっと気になる働き方の話（第2版）』勁草書房 2024年 権丈善一『ちょっと気になる政策思想（第2版）』勁草書房 2021年 権丈善一『ちょっと気になる医療と介護（第3版）』勁草書房 2023年 厚生労働省『平成24年厚生労働白書』（「第1部 社会保障を考える」を活用）以下のHPより、ダウンロード可。 <a href="http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/12/">http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/12/</a>	
成績評価方法と基準	ディスカッションへの参加度（30%）、最終講義後に提出を求める課題レポート（70%）を合わせて、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。	

□医療・福祉専門科目

科目名	リハビリテーション特論Ⅰ	1 単位
担当者	浅井 友詞、岩田 全広、野間 知一 木村 圭佑（非常勤教員）、小久保 充（非常勤教員）	
開講形態	第1回～第5回：ハイブリッド形式 第6回、第7回：原則対面形式	
テーマ	リハビリ（予防期、急性期、回復期）、フレイルを通して、患者・利用者の Well-being を支援する	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; リハビリテーション、転倒予防、フレイル、マネジメント、ICF、Well-being</p> <p>&lt;内容の要約&gt; リハビリ・転倒予防・フレイル・マネジメントを通して、利用者の Well-being を支援する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>①リハビリ、転倒予防、フレイル中心にマネジメントの基礎的知識・考え方を理解する。</p> <p>②多職種連携の共通用語である ICF を理解し活用できる。</p> <p>③予防期・急性期・回復期・生活期のリハビリテーションマネジメントの実践と課題を理解する。</p> <p>④ケースディスカッションを通じて Well-being の実現を検討できる。</p>	
授業の進め方	<p>第1回 リハビリテーションマネジメントの基本的な知識①（2時間）【浅井】</p> <p>第2回 予防期 地域で取り組むフレイル予防、転倒予防、誤嚥性肺炎予防における Well-being リハビリテーションの実践と評価（2時間）【浅井】</p> <p>第3回 急性期 早期リハビリテーションマネジメントの実践と評価（2時間）【岩田】</p> <p>第4回 回復期 入退院支援やリスクマネジメント①前半期（2時間）【野間】</p> <p>第5回 回復期 入退院支援やリスクマネジメント②後半期（2時間）【野間】</p> <p>第6回 回復期 ケース教材を用いたケースメソッド演習①（変則3時間）【木村】</p> <p>第7回 回復期 ケース教材を用いたケースメソッド演習②（変則3時間）【小久保】</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>（第1回～第5回） 各回における講義テーマについて事前に文献等を調べて事前学習をすること。</p> <p>（第6回-第7回） 1週間前に使用するケース教材・課題シートを配布します。事前学習としてケース教材をよく読んで、課題シートの設問について自身の考えをまとめておくこと。</p>	
本科目の関連科目	リハビリテーション特論Ⅱ、先端老年社会科学講座（大学院共通科目）、ケースメソッド基礎	
テキスト	講義資料配布	
参考文献	特に指定しない。	
成績評価方法と基準	小レポート 30%、最終レポート 70%により評価し、総合評価 60%以上を合格とする。	

□医療・福祉専門科目

科目名	多文化共生とディスアビリティ	2単位
担当者	大谷 京子	
開講形態	ハイブリッド形式	
テーマ	ディスアビリティの視点から多文化共生を志向する	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 障害学、交差性、反抑圧ソーシャルワーク</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 多文化共生をめぐる理論的・実践的課題を、ディスアビリティの視点から批判的に検討する。とくに障害学（Disability Studies）および障害文化（Disability Culture）の知見を基盤に、障害が文化・社会・権力関係の中でどのように構築されてきたのかを理解する。あわせて、交差性（intersectionality）に着目し、反抑圧ソーシャルワークの適用について検討したい。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ①障害学・障害文化の視点から、障害の社会的・文化的構築を批判的に分析できる。 ②障害と民族、国籍、ジェンダー、階級などとの交差性について理解する。 ③反抑圧ソーシャルワークについて説明できる。</p>	
授業の進め方	<p>第 1 回 オリエンテーション /第 2 回 多文化共生概念の系譜と社会福祉学的課題 第 3 回 障害概念の変遷 /第 4 回 ディスアビリティのモデル 第 5 回 障害学（Disability Studies）、マッドスタディーズの概要 第 6 回 障害文化という考え方 第 7-8 回 ディベート 第 9 回 交差性概念 /第 10 回 ジェンダー・セクシュアリティとディスアビリティ 第 11 回 反抑圧ソーシャルワークの概要 第 12 回 反抑圧ソーシャルワークのための再帰性（reflexivity） 第 13-14 回 受講者による研究発表 第 15 回 総括討論</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>■研究発表について 多文化共生の現状と課題について、13,14講で研究発表をしていただきます。たとえば「反抑圧ソーシャルワークを自組織に導入するには」、「障害文化という視点を」など、テーマは自由です。2時間ほど、グループでの検討時間を授業時間内に提供しますが、それだけでは足りませんので、授業時間外での準備が必要になります。</p> <p>■初回授業の時に、あらかじめ参考文献の中から1冊を読んでレポートを提出してください。テーマは自由です。A4用紙に40文字×40行で1600文字以内です。</p>	
関連科目	人権とダイバーシティ	
テキスト	テキストは利用せず、プリントなど資料を用意する。	
参考文献	<p>石川准・長瀬修 編（1999）『障害学への招待』明石書店。 星加良司（2007）『障害とは何か：ディスアビリティの社会理論に向けて』生活書院。 コリンズ・P.ヒル（2024）『インターセクショナルリティの批判的社会理論』勁草書房。 坂本いづみ・茨木尚子・竹端寛・二木泉・市川ヴィヴェカ（2021）『脱「いい子」のソーシャルワーク - 反抑圧的な実践と理論』現代書館。 加賀美常美代（2025）『多文化共生論：多様性理解のためのヒントとレッスン』明石書店。</p>	
成績評価方法と基準	レポート(40%)、ディスカッションへの貢献（30%）、研究発表（30%）によって評価をおこない、全体で60%以上を合格とする。	

□医療・福祉専門科目

科目名	福祉と疾病	1 単位
担当者	洪 英在	
開講形態	対面形式	
テーマ	生活に配慮した医療の視点を学び、医療職と福祉職の連携の在り方に関する知見を深めることを目指す	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; がん、脳卒中、心疾患、認知症、フレイル、神経難病、在宅医療、意思決定支援、人生会議（ACP）、総合機能評価、多職種連携</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 本講義では、医療・介護・福祉の連携について深めることを目指しているが、まずは、医療職の疾患のとらえ方、生活を支える医療とはどういうものか、という医療職の考え方を言語化する作業から開始し、共有することから始める。ガイドラインを踏まえた意思決定支援について、終末期医療における食に関する事項、終末期における諸問題について取り扱います。これらは、いずれも多職種が質の高い連携、協働の上で支えることが求められています。</p> <p>在宅医療での医療と福祉の連携、という観点で議論を進めるが、上記でとりあげる様々な事項は、在宅医療の現場だけではなく、病院、施設などすべての分野で共通する問題でもある。そのような課題を整理し、「生活に配慮した医療」の視点を知り、福祉職との連携の在り方に関して議論を進めたい。</p> <p>今後、在宅医療の推進は急務です。在宅医療においては、病院での医療とは異なる、在宅医療ならではの特有の考え方があります。それを意識しながら、医療的な視野を持ちつつ、多職種で療養者を支える方法を考えてみましょう。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 意思決定支援（ACP、人生会議）、終末期における食、終末期における諸問題を理解することができる。 在宅医療体制と支援機能（訪問診療・訪問看護・訪問リハ・訪問薬剤管理指導、訪問栄養食事指導等）の連携を理解できる。 多職種連携の意義、その方法について説明することができる。</p>	
授業の進め方	<p>第 1,2 回 オリエンテーション、医療職の疾患のとらえ方、生活を支える医療とは？ 医療職の考え方</p> <p>第 3,4 回 意思決定支援、ACP、人生会議</p> <p>第 5,6 回 認知症と食に関する諸問題</p> <p>第 7,8 回 様々な終末期に関する諸問題</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>医療、福祉の現場経験のある方は、今までの経験の中で、印象に残っていることや問題に感じていることを思い出しながら臨んでください。</p> <p>上記のスケジュールは、参加者との議論の中で変わり得るものです。議論が深まったテーマは次回以降の授業で扱う場合もありますので、積極的な参加を求めます。</p>	
本科目の関連科目	効果的な学習のため、「福祉と介護」の履修を推奨します。	
テキスト	講義中に資料を提供いたします。	
参考文献	<p>&lt;著者&gt; 川越正平（著、編） &lt;書籍名&gt;在宅医療バイブル 家庭医療、老年医学、緩和医療学の3領域からアプローチする 第2版 &lt;出版社&gt;日本医事新報社</p>	
成績評価方法と基準	ディスカッションへの参加度（40%）、提出レポート（60%）の方法で評価をおこない、全体で60%以上を合格とする。	

□医療・福祉専門科目

科目名	リハビリテーション特論Ⅱ	1 単位
担当者	山中 武彦 ・ 渡辺 崇史 ・ 川村 享平（非常勤教員）	
開講形態	ハイブリッド形式	
テーマ	ICT や福祉機器の導入・活用による自立支援・業務改善で Well-being を目指す	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; ICT、福祉機器、自立支援、業務改善、Well-being、ICF、社会参加</p> <p>&lt;内容の要約&gt; ICT や福祉機器（自助具含む）を導入する目的は、高齢者・障害者の自立支援を目指すとともに、医療・福祉現場の業務改善や働き方改革を目指します。特に介護人材が不足している高齢者・障害者施設や在宅では、介護ロボット、リフト、ICT などテクノロジーの活用推進による生産性向上が求められています。</p> <p>しかし、ICT や福祉機器導入に不安・抵抗感がある、導入したものの使いきれず、いつのまにか元の仕事の仕方に戻ってしまうなど、組織マネジメントに課題があることが指摘されています。背景には、ICT や福祉機器の導入が医療・福祉現場の価値を高める生産性向上、ケアの改善、利用者の自立支援に資するという全体像や、マネジメントプロセスを組織内で共有されていないことがあります。</p> <p>ICT や福祉機器導入のマネジメントプロセスは、①改善活動の準備、②課題の見える化、③実行計画の立案、④改善活動の実施、⑤改善活動の振り返り、⑥実行計画の練り直しのPDCA を組織全体で展開します。ただし、医療・福祉現場の業務改善の課題整理をしないで、導入することも散見されます。本講義では、これらを踏まえたうえで、ICT や福祉機器導入・実践・評価までの一体的なマネジメントプロセスを学びます。</p> <p>さらに、重度な障害者が ICT や福祉機器によって社会参加を成し遂げるという事例も多く報告されています。これは ICF の環境因子である ICT と福祉機器が、生活機能である「活動」と「参加」との相互作用を発揮することで、Well-being が実現されています。</p> <p>また、本講義はケースディスカッション（ケースメソッド）や実践事例の検討を多めに配置しています。参加者同士の相互作用を醸成することで、分析力・問題解決力・連携力を向上させ、Well-being の実現を追求します。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ①ICT・福祉機器導入・活用による自立支援や業務改善の現状と課題が説明できる ②ICT・福祉機器導入・活用によるマネジメントプロセスを説明できる ③ICT・福祉機器によって生活機能が向上し、Well-being の実現を検討できる ④ICT・福祉機器導入・活用の実践例から、組織マネジメントの現状と課題を整理できる</p>	
授業の進め方	第01回 福祉機器導入・活用が求められる背景（山中） 第02回 福祉機器のマネジメントプロセスの実際（山中） 第03回 福祉機器と社会参加の実現①（渡辺） 第04回 福祉機器と社会参加の実現②（渡辺） 第05回 福祉機器導入・活用の事例①（山中） 第06回 福祉機器導入・活用の事例①（山中） 第07回 福祉機器導入・活用の事例②（川村） 第08回 福祉機器導入・活用の事例②（川村）	
事前学習の内容・学習上の注意	必要に応じ、授業終了時に、次回の資料や論文を配布するので読んでおくこと。	
本科目の関連科目	効果的な学習のため、「リハビリテーション特論Ⅰ」の履修を推奨します。	
テキスト	なし	
参考文献	適宜授業内で紹介します	
成績評価方法と基準	1 回ごとのコメントカードの提示（40%）、提出レポート（60%）の方法で評価をおこない、全体で60%以上を合格とする。	

□医療・福祉専門科目

科目名	人権とダイバーシティ	1 単位
担当者	木全 和巳	
開講形態	対面形式	
テーマ	「多様性との対話」－「人間の権理（ヒューマンライツ）」概念を手掛かりとしてソーシャルワーク実践に引き寄せつつ	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; ダイバーシティ（多様性）、ヒューマンライツ（人間の権理）、SDGs、ジェンダー、セクシュアリティ、ディスアビリティ、レイシズム、差別、インターセクショナルリティ ポリティカル・コレクトネス ソシャルワーク実践</p> <p>&lt;内容の要約&gt; キーワードにあるようにダイバーシティ（多様性）については、多彩な対象や切り口や論点が多々ある。具体的な「なまみ」の名前がある人たちに起こる事象とこうした理念や概念を重ね合わせつつソーシャルワーク実践の視点から、個別のテーマを提示しつつ、対話を大切にしながら学び合う。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ・朝井リュウは『生欲』新潮社（2021）の中で「多様性とは、都合よく使える美しい言葉ではない。自分の想像力の限界を突き付けられる言葉のはずだ。時に吐き気を催し、時に目を瞑りたくなるほど、自分にとって都合の悪いものがすぐ傍で呼吸していることを思い知らせる言葉のはずだ」と書いていた。ダイバーシティ（多様性）を尊重するとはどのようなことなのか？ 現実の事象の把握の仕方を含め、学び合い方、考え合い方も含め、共に学び合い、考え合いたい、自分に納得でき、他者にも伝わる言葉を紡ぎたい。 ・基本的人権や人々のダイバーシティについて理解し実践できる。</p>	
授業の進め方	<p>I.（第1回-第2回）9月30日（水）6時限～7時限 ダイバーシティ（多様性）とヒューマンライツ（人間の権理）と差別 SDGsの内容とうわべだけの推進企業や教育の問題点</p> <p>II.（第3回-第4回）10月14日（水）6時限～7時限 しょうがい（ディスアビリティ）の理解を中心に</p> <p>III.（第5回-第6回）10月28日（水）6時限～7時限 ジェンダーの理解を中心に フェミニズムと多様な「家族」も 多様な性と生（セクシュアリティ）を中心に LGBTQ+など</p> <p>IV.（第7回-第8回）11月11日（水）6時限～7時限 多文化共生とレイシズムを中心に ポリティカル・コレクトネスの理解も</p> <p>2限続きなので、話題提供、対話的討論 わかちあいという方法で行いたい。</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>関連するテーマは幅広く、理論も切り口も多彩である。「インクルージョン（包摂）、ダイバーシティ（多様性）、平等はIOCのあらゆる活動の核心的な要素であり、差別禁止はオリンピック・ムーブメントの主要な柱」とIOCは語る。コロナ禍の東京五輪では『イマジン』を歌いながら「国別」のメダルを競う野蛮、「ほんとうのさいわい」をねがった宮沢賢治もあきれかえるオリンピック憲章で多様性と共生などを謳いつつ、女性差別、しょうがい蔑視、ナチス肯定など差別的な行為を行った人間が運営を仕切る茶番。実は、トランプ再選後、企業理念からDE&amp;I（ダイバーシティ、エクイティ&amp;インクルーシブネス）を消したというできごと。「はて？」と批判的に学び合いたい。</p>	
本科目の関連科目	特になし	
テキスト	岩淵功一『多様性とう向き合うか』岩波新書 2025 資料を用意する。	
参考文献	岩淵功一（著編集）『多様性との対話 ダイバーシティ推進が見えなくするもの』青弓社 2021 ダイアン・J・グッドマン（著）、出口真紀子（訳）『真のダイバーシティをめざして：特権に無自覚なマジョリティのための社会的公正教育』上智大学出版 2017	
成績評価方法と基準	毎回のコメントを含む講義への参加度（40%）、最終レポート（60%）により評価し、総合評価60%以上を合格とする。最終レポートのテーマは、各回から各自選ぶこと。3200字程度。論理性、説得力などで評価をする。	

□医療・福祉専門科目

科目名	福祉と介護	1 単位
担当者	水谷 なおみ・北村 眞弓（非常勤教員）	
開講形態	対面形式	
テーマ	介護を取り巻く社会的動向の理解と医療の視点を活用したケア方法、サービスマネジメント、およびリスクマネジメントについて理解する	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 介護人材の確保、医療と連携したケア方法、ハラスメント、虐待予防</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 2040 年を見据えると、医療・介護の複合的ニーズを抱える 85 歳以上が増大する。要介護者は基礎疾患を複数保有していることから、病状は変化しやすく、常に医療と介護の連携が求められる。その一方、介護現場における介護人材の確保は喫緊の課題である。また、介護事故や虐待、ハラスメントについても指摘されている。</p> <p>本講義では、医療と連携したケア方法とサービスマネジメント、およびリスクマネジメントを取り上げ、安全な介護サービスの提供、介護人材を確保するための方策について講義や事例演習から検討する。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ①介護人材を取り巻く社会的動向を分析し、介護人材を確保する方策を検討できる。 ②脳卒中、心疾患、がん、認知症、フレイル、神経難病のケア方法や多職種連携のマネジメントを理解する。 ③介護事故、ハラスメント、虐待の対策を検討し、安全な介護サービスの提供を検討できる。</p>	
授業の進め方	<p>第 1 回 介護を取り巻く社会的動向(1) 介護人材の確保・介護 DX など</p> <p>第 2 回 介護を取り巻く社会的動向(2) 地域包括ケアシステム</p> <p>第 3 回 ケア方法とサービスマネジメント(1)</p> <p>第 4 回 ケア方法とサービスマネジメント(2)</p> <p>第 5 回 ケア方法とサービスマネジメント(3)</p> <p>第 6 回 リスクマネジメント(1)</p> <p>第 7 回 リスクマネジメント(2)</p> <p>第 8 回 リスクマネジメント(3)</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な学習のために「福祉と疾病」を履修することが望ましい。</li> <li>・ディスカッションには積極的に参加すること。</li> </ul>	
本科目の関連科目	福祉と疾病	
テキスト	なし（毎回、担当者が作成した資料等をもとに、講義と演習を行います）	
参考文献	・中澤まゆみ『おひとりさまでも最後まで在宅：平穏に生きて死ぬための医療と在宅ケア 第 3 版』築地書店 2020 年	
成績評価方法と基準	レポート(60 点)、毎回のコメントカード提出(20 点)、ディスカッションへの参加度(20%)により評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。	